

有明海とともに生きるために

大牟田市立みなと小学校 6年生

1 (有明海のよさ)

- ・世界でもめずらしい広大な干潟があること(図)
- ・その干潟に、めずらしい生物が生活していること(写真)
- ・干満の差を生かしたのり養殖など、豊かな産業が行われていること(写真)

2 (有明海の問題)

- ・三里漁業協同組合さんのお話(写真)
 - (1)漁獲量が大きく減っている(グラフ)
 - 稚貝が育たなくなっているから(図)
 - 稚貝育たない←稚貝を食べる魚育たない←魚食べる魚集まらない
 - (2)漁業をしていて実感している海の変化
 - 海の水が透き通ってきた(10cm→3m)
 - 干潟がヘドロ化している
 - 干潟が減ってきている

3 (問題の原因)

・三里漁業協同組合さんと荒尾干潟水鳥・湿地センター館長さんのお話(写真)

(1) (海水がきれいになりすぎている) (図)

→ 栄養(有機物)を含んだ水が浄水場で浄化され

栄養のない(無機質)水になっている

(2) (砂が流れ込まなくなっている) (図)

→ 川岸が護岸されたり、堰が出来たりして、砂が運ばれなくなっている

(3) (酸素が少なくなっている) (図)

→ ダムが出来たり堰が出来たりして、川から流れる水の勢いが弱まり、海の水を

かき混ぜる力が弱まっている

(4) (海水温が上がっている) (グラフ)

→ 温暖化の影響で海水温が上がり、今まで有明海では見られなかった魚が有

明海に入ってきて、稚魚を食べている

つまり、これまで保ってきたバランスがくずれている(綾乃さん)

↑ 人間にとってよい生活を求めた結果、海に悪影響を与えていた

その悪影響が、「魚がとれない」「マイクロプラスチック」などの問題として

人間に返ってきている

4 (私たちができることは)

(1) 私たちが多くの人に現状を伝え、関心をもってもらう

(功成さん、真人さん、真花さん、千晴さん)

→現在のバランスをこわすことはできない(ダムや浄水場を無くす)

でも、私たちが行動することで以前の環境に少しでも戻すことはできる

(2) これからは他への影響を考えた開発をすることを考えて生きる(悠樹さん)

→川の水を全てせき止めず、そのまま流す分水路をつくるなど

(3) 私たちができることから行動する

→木を植える活動、森を豊かにする活動に協力する(募金など)

(啓希さん、涼子さん)

→洗剤の量に気を付ける(和獅さん)

→海にもっと関心をもつ(夕葵さん)

→ごみの分別、ゴミ拾いなど(たくさんの人たちの案)